

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成29年度

県立学校評価委員会

| 学校名 | 埼玉県立川口青陵高等学校 | Cグループ |
|------------|----------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 項目 | 調査の観点 | 取組状況に関する所見 |
| 目指す学校像 | 目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。 | 学校の教育活動の方針を基にしながら、生徒の現状に応じて「主体的に学び」「自立できる生徒の育成」といった文言を用いてレベルアップが図られている。長期的な視点からの学校の目指す方向が積極的に示されている。 |
| 重点目標 | 学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。 | 前年度に重点化が図られ、「三年間を見通した進路指導を実現」など学校の目指すところが示されている。目指す学校像を踏まえ、学校の取り組むべき課題が明確かつ具体的に示されており、日々の教育活動の指針となっている。 |
| 重点目標達成への取組 | 重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。 | 評価運営委員会と分掌・学年等が連携するとともに、分掌・学年等が連携しながら目標達成を目指す体制が整いつつある。学校自己評価システムが適切に運営されており、学校関係者の意見などを積極的に活用して取組を進めようとしている。 |
| | 方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。 | 現状や課題に基づき、朝学習の実効性を高める取組など評価項目の達成に向けた方策が実施されており、評価指標が教職員間で達成イメージを共有できるように工夫されている。学校全体の目標に基づいた分掌・学年等の目標を設定するとともに、分掌・学年等の取組を全体シートに反映させるなど、組織として計画的に方策を実施している。 |
| | 校長的的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。 | 校長は学校の現状と課題を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、その方針を教職員や生徒、学校関係者に示しながら取組を進めている。校長が的確にリーダーシップを発揮し、分掌・学年などが全体の目標に基づいて、適切に取組を行っている。 |
| | 学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。 | 前年度の課題を次年度の方策の策定などに生かし、スパイラルアップに努めている。課題や次年度における改善策を明らかにするために、実態を把握できるようにアンケートの設問などを工夫し、結果等を更に分析していただきたい。 |
| 特記事項 | | |